

女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム WAW! 2015 ユース・テーブル参加報告書

2015年8月29日

1. 概要

安倍政権の最重要課題の一つである「女性が輝く社会」を実現するための取組の一環として、昨年から年一回開催され、世界各国及び日本各地から女性分野で活躍するトップ・リーダーが出席し、日本及び世界における女性の活躍促進のための取組について議論を行った。

WAW! for All をテーマとし、16 のハイレベル・ラウンドテーブルが設置されるとともに、今年はスペシャル・セッション内でユーステーブルが初めて開催された。ユーステーブルでは、「若者が作りたい社会～ダイバーシティと強靱性～」をテーマに、より良い社会を作っていこうという志を持ち、多様な環境下で活動している若者が集まり、革新的な活動や経験を共有し、若者ができることや若者の想いを共有し社会に示した。



2. ユーステーブル参加者

東京大学（2）・名古屋大学・東北大学・慶応大学・ロンドンスクールオブエコノミクス・三菱商事フリーランス漫画家、一橋大学（台湾）・フリーランス漫画家（フィンランド）



ウェルビーイング正規履修生 1 名（教育発達科学 佃瞳さん）がスピーカーとして参加・発言、学生 7 名・教員 2 名も傍聴。

3. 成果

- ユーステーブルの議論は WAW! To Do (報告文書) 中に反映される予定。
- 参加した学生にとっては、同年代の若者がより良い社会に向けて積極的に活動・発信している姿を目の当たりにし、今後のウェルビーイングの活動に対する動機づけになった。
- 各国大臣、国際機関代表などの世界のトップ・リーダーと交流する機会を持つことができた。
- 国際的な場で名古屋大学のプレゼンスを示すことができた。

4. 参加学生からの報告

WAW! 2015 に参加して

教育発達科学研究科 2年 佃 瞳
(ウェルビーイング第一期生)

2015/8/28-29 の日程で開催された、World Assembly for Women in Tokyo: WAW! 2015 のユースセッションにスピーカーとして参加しました。各国の首相やジェンダー担当大臣、企業の取締役等、世界各国から今後の女性活躍促進のキーパーソンとなる方々が出席する会に、Well-being プログラムを通じて私も参加できたことは大変光栄なことでした。また、この Well-being プログラムがいかに多くの人や機関とのつながりを持ちながら活動しているかということを確認することができ、このような機会を提供して下さった方々に改めて感謝したいと思います。

ユースセッションでは、様々な分野で活躍する若者・学生から、女性が社会の中で抱えている人権や well-being に関わる問題について広く意見を聞くことが出来ました。日本の伝統社会や一般企業の中での生き方を模索する女性の経験、これから社会に出る女性をサポートする学生団体の活動内容、また、より広い意味で、現状に対して声を上げることのできるユースの育成に関わる学生による問題提起等、様々な意見や挑戦に関する話がなされました。これらの話から私が意見できることとしては、これからもこの国・世の中が、このような若者・女性による挑戦を可能にする環境であり続けてほしいということです。残念ながら今の日本は格差が拡大し、さらには、努力しても報われない、一度ドロップアウトした人間は戻ってくるできない社会になりつつあります。厳しい状況になったときに割を食うのは社会的弱者である女性と若者(子ども)です。女性の活躍に力を入れるということは、社会的弱者を守ることと意は同じはずですが、女性活躍推進法と労働者派遣法が同時に成立しているという不自然な状況からもわかるように、そうではないというのが日本の現状です。このような困難な状況の中で、私たちは世の中の大きな流れや背景、意図、そしてそこに潜む問題点を見つめ、今回のセッションに参加した方々のように、それら課題の解決に向けた行動や発信をひとつひとつ行っていく、挑戦が可能な世の中を作っていくことが

大切なのではないかと思います。また同時に、領域横断型であるこの Well-being プログラムは、若者に「世の中全体を俯瞰しその背景や課題について思考する幅広い知識や経験を育てる」という重要な役割を担うると感じ、このプログラムの意義を再認識することが出来ました。

最後にシンポジウム全体の議論を通して、準備不足が否めないところがあったとはいえ、あのようないわば、「外交の場」に参加させて頂き、国際会議とはなんたるかを知り、どうあるべきかを考えることが出来たのは一学生に過ぎない私にとって、とてもよい経験となったということも事実です。このような貴重な機会を頂いたことを、関係者の皆さまに重ねて御礼申し上げます。そして、この Well-being プログラムを通じてこれからも、より多くの学生が社会の抱える課題に関わり、行動できる機会が得られることを期待しています。